

鹿公園の鹿



鹿公園は昭和29年に旧追分町の町有林となります。当時、町内には町民の憩いの場がなかったため、この町有林一帯を公園にしようと計画。昭和43～44年頃から池を掘るなど整備を進めました。昭和46年に当時160万円の予算で鹿牧場を設けるべく、フェンスやブロック小屋などを作り、同年10月21日に様似町より雌雄2頭の鹿（ポッコくんとポッピーちゃんという名前だったそう）を買い入れ、飼い始めます。

それ以来、自然繁殖でその数を増やして昨年は3頭が誕生、令和4年1月現在で13頭が飼育されています。「鹿公園」という名前の通り、この公園の象徴的存在です。以前は他にクジャクやアヒル、サンケイ、ウサギなどが小屋で飼育されていましたが、現在はウサギのみです。

鹿公園の施設

平成3年度から平成5年度にかけ、大規模な鹿公園の整備事業が行われました。平成3年度の基本設計では、現在の「憩いの広場」の南側に2つの池が配置される予定でしたが、平成5年度に計画を大幅に見直し、池を芝生広場とする予定であった位置に変更します。



その後、北海道が所有していた苗畑（北側・南側の2か所）が廃止となって、平成13年に町の所有地として買収。平成20年から平成25年にかけて行われた鹿公園周辺の整備事業で、北側の苗畑をパークゴルフ場に、南側の苗畑を第2キャンプ場・ドッグラン・駐車場に整備し、現在の鹿公園となりました。

鹿公園の四季

保健保安林は、指定された当初の原生林のまま残されていて、北海道ならではの樹木や植物など、その種類は100種類以上！

園内には、春にミズバショウやサクラが咲き、夏にはスズランやスイレンが、秋はサクラやイチョウなどの葉が色づき、冬には木々に雪が積もって幻想的で美しい景色を見せてくれます。

植物だけでなく、飼育しているエゾシカ、ウサギ以外にもたくさんの生き物が生息しています。四季を通してたくさんの野鳥が姿を見せ、夏は川でホタルが飛び、冬には雪の上を歩く野生の鹿やキタキツネの足跡を見ることができるなど、1年を通して自然の豊かさが感じられる場所です。



※この特集は、令和3年9月29日に町Facebookで公開した記事を再編集したものです。